

北海道栗山町ゼロカーボンシティ宣言

- 2050年二酸化炭素排出実質ゼロに向けて -

近年、温室効果ガス排出の影響によって気候変動が生じており、世界各地で異常気象による災害が発生しています。気候変動の要因となっている温室効果ガスは、経済活動・日常生活に伴い排出されており、将来の世代も安心して暮らせる、持続可能な経済社会をつくるためには、誰もが無関係ではなく、あらゆる主体が脱炭素社会の実現に向けて取り組む必要があります。

2015年に合意されたパリ協定では、「世界の平均気温上昇を1.5℃に抑える努力」を目標として定め、今世紀後半には、人為起源による温室効果ガス排出量を実質的にゼロにする長期目標としています。また、同年の国連サミットにおいて2030アジェンダが全会一致で採択され、17の目標と169の達成すべき項目で構成されたSDGs（持続可能な開発目標）が国際社会共通の目標として示されました。

我が国では、2020年10月26日に当時の菅総理大臣が所信表明において「2050年までにカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言し、北海道では2020年3月「2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロをめざす」ことを表明しております。

本町ではこれまで、温室効果ガス削減に向けた施策として、住宅用太陽光発電システムの設置補助や公共施設等における太陽光パネルの設置など、再生可能エネルギーの推進や、施設照明のLED化による省エネルギー対策に取り組んでおります。

温室効果ガスの排出抑制といった地球温暖化対策の推進は、第7次総合計画においても計画事業として位置付けており、継続して取り組んでいくこととしています。

将来の世代が安心して暮らすことのできる町づくりを進めるべく、町民および事業者の皆様とともに脱炭素化に積極的に取り組み、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現を目指していくことを、ここに宣言いたします

令和5年3月16日

北海道栗山町長 佐々木 学